

LESSON NOTES

Advanced Audio Blog S5 #19 Top 10 Japanese Historical Figures: Nobunaga Oda

CONTENTS

- 2 Kanji
- 2 Kana
- 4 Romanization
- 5 English
- 6 Vocabulary
- 6 Sample Sentences
- 7 Grammar

19

KANJI

1. 織田信長
2. 「鳴かぬなら 殺してしまえ ホトトギス」。これは短気で冷酷な織田信長の性格をよく表している句として、知られています。織田信長は、15世紀から16世紀末まで続いた戦国時代に活躍した戦国大名の一人で、後に紹介する豊臣秀吉、徳川家康と並び戦国時代の三英傑と呼ばれています。
3. 信長は、尾張の国（現在の愛知県）の城主の息子として生まれました。物を食べながら街中を歩いたり、突飛な服装や髪型を好んだり、当時の常識では考えられないことばかりをしていたので、周りの人からは「尾張の大うつけ（大馬鹿という意味）」と陰口を言われていたとか。
4. そんな信長でしたが、父の死により、家を継ぎ尾張一国を統一。周りの大名を戦で破り、たちまち近隣諸国を征服していきます。
5. 「大うつけ」とさえ呼ばれた、常識にとらわれない自由かつ合理的な考え方こそが、信長の成功の原動力だったのでしょうか。信長に反抗する仏教勢力の力を弱めるために、宣教師にキリスト教の布教を許したり、宣教師と共にやってきた外国兵を受け入れたり、能力の優れている者は出身を問わず登用したりと、当時としてはかなり型破りなこともしました。また、戦に明け暮れるだけでなく、商業や経済の発展や外国との貿易にも力を注ぎ、新しい社会体制・文化を築いていったのです。
6. しかし、冒頭に紹介した句にもあるように、短気で激しやすく非情な面があったのも事実。その性格が、全国統一を目前に自分の家臣に殺されてしまうという結果を招いてしまっています。信長にもう少し人の心をいたわる気持ちがあったなら、歴史は変わっていたでしょう。

KANA

CONT'D OVER

1. おだのぶなが
2. 「なかめならころしてしまえ ホトトギス」。これはたんきでれいこくなおだのぶながのせいかくをよくあらわしている くとして、しられています。おだのぶながは、15せいきから16せいきまつまでつづいたせんごくじだいにかつやくしたせんごくだいみょうのひとりで、のちにしょうかいするとよとみひでよし、とくがわいえやすとならびせんごくじだいのさんえいけつとよばれています。
3. のぶながは、おわりのくに（げんざいのあいちけん）のじょうしゅのむすことしてうまれました。ものをたべながらまちなかをあるいたり、とっぴなふくそうやかみがたをこのんだり、とうじのじょうしきではかんがえられないことばかり をしていたので、まわりのひとからは「おわりのおおうつけ（おおばかといういみ）」とかげぐちをいわれていたとか。
4. そんなのぶながでしたが、ちちのしにより、いえをつぎおわりいっこくをとらうつ。まわりのだいみょうをいくさでやぶり、たちまちきんりんしょくをせいふくしていきます。
5. 「おおうつけ」とさえよばれた、じょうしきにとらわれないじゆうかつごうりてきなかんがえかたこそが、のぶながのせいこうのげんどうりよくだったのでしょう。のぶながにはんこうするぶつきょうせいりよくのちからをよわめるために、せんきょうしにキリストきょうのふきょうをゆるしたり、せんきょうしとともにやってきたがいこくへいをうけいれたり、のうりよくのすぐれているものはしゅっしんをとわずとうようしたりと、とうじとしてはかなりかたやぶりのことも しました。また、いくさにあけくれるだけでなく、しょうぎょうやけいざいのはってんやがいこくのぼうえきにもちからをそそぎ、あたらしいしゃかいたいせい・ぶんかをきずいていったのです。

CONT'D OVER

6. しかし、ぼうとうにしょうかいしたくにもあるように、たんきでげきしやすくひじょうなめんがあったのもじじつ。そのせいかくが、ぜんこくとういつをもくぜんにじぶんのかしんにころされてしまうというけっかをまねいてしまいます。のぶながにもうすこしひとのこころをいたわるきもちがあったなら、れきしはかわっていただいでしょう。

ROMANIZATION

1. Oda Nobunaga
2. "Nakanunara koroshiteshimae hototogisu." Kore wa tanki de reikoku na Oda Nobunaga no seikaku o yoku arawashite iru ku to shite, shirarete imasu. Oda Nobunaga wa, 15-seiki kara 16-seiki matsu made tsuzuita Sengoku-jidai ni katsuyaku shita Sengoku Daimyō no hitori de, nochi ni shōkai suru Toyotomi Hideyoshi, Tokugawa Ieyasu to narabi Sengoku-jidai no san-eiketsu to yobarete imasu.
3. Nobunaga wa, Owarino-kuni (genzai no Aichi-ken) no jōshu no musuko to shite umaremashita. Mono o tabenagara machinaka o aruitari, toppi na fukusō ya kamigata o konondari, tōji no jōshiki de wa kangaerarenai koto bakari o shite ita no de, mawari no hito kara wa "Owari no ōutsuke (ōbaka to iu imi)" to kageguchi o iwarete ita toka.
4. Sonna Nobunaga deshita ga, chichi no shi ni yori, ie o tsugi Owari ikkoku o tōitsu. Mawari no daimyō o ikusa de yaburi, tachimachi kinrin shokoku o seifuku shite ikimasu.
5. "ōutsuke" to sae yobareta, jōshiki ni torawarenai jiyū katsu gōriteki na kangaekata koso ga, Nobunaga no seikō no gendōryoku datta no deshō. Nobunaga ni hankō suru bukkyō seiryoku no chikara o yowameru tame ni, senkyōshi ni kirisuto-kyō no fukyō o yurushitari, senkyōshi to tomo ni yattekita gaikokuhei o ukeiretari, nōryoku no sugurete iru mono wa shusshin o towazu tōyō shitari to, tōji to shite wa kanari katayaburi na koto mo shimashita. Mata, ikusa ni akekureru dake de naku, shōgyō ya keizai no hatten ya gaikoku to no bōeki ni mo chikara o sosogi, atarashi i shakai taisei, bunka o kizuite itta no desu.

CONT'D OVER

6. Shikashi, bōtō ni shōkai shita ku ni mo aru yōni, tanki de geki shiyasuku hijō na men ga atta no mo jijitsu. sono seikaku ga, zenkoku tōitsu o mokuzen ni jibun no kashin ni korosarete shimau to iu kekka o maneite shimaimasu. Nobunaga ni mou sukoshi hito no kokoro o itawaru kimochi ga attanara, rekishi wa kawatte ita deshō.

ENGLISH

1. Nobunaga Oda
2. "If the cuckoo doesn't sing, kill it." This is a line that is well-known in that it is often used to represent the quick-tempered and cruel personality of Nobunaga Oda. Nobunaga Oda was one of the feudal lords of the Warring States period, which lasted from the fifteenth century until the end of the sixteenth century. He, Hideyoshi Toyotomi, and Ieyasu Tokugawa, whom I will introduce later, are called the three great men of the Warring States period.
3. Nobunaga was born the son of the lord of a castle in Owari-no-kuni (present-day Aichi prefecture). Apparently he spent all his time doing things that went totally against the social etiquette of the time, such as eating while walking around the town and sporting outlandish clothes and hairstyles, and so, he was called Owari's giant utsuke (meaning "total fool") behind his back by the townspeople.
4. So, that was the type of person Nobunaga was. However, following his father's death, he became the head of his household and united Owari as one country. He soundly defeated the neighboring feudal lords in battle, and in one fell swoop he conquered the surrounding countries.
5. It was almost certainly that very same "thinking-outside-the-box" free and logical way of thinking, which was called "totally foolish," that was the driving force behind Nobunaga's success. In order to weaken the power of the Buddhist forces that opposed him, Nobunaga permitted missionaries to preach Christianity, allowed the soldiers who accompanied the foreign missionaries into the country, and appointed men of great ability without inquiring into their background—things that at the time were considerably unconventional. He didn't just spend all his time fighting battles, but he also concentrated his efforts on developing commerce and the economy and on trade with foreign countries; in effect, he created a new social order and culture.

CONT'D OVER

6. However, as is also evident in the line I mentioned at the beginning, it is true that he also had a side that was quick tempered, easy to fly into a rage, and callous. It was that nature that would lead to Nobunaga being killed by his own vassal just before he managed to unite the whole of Japan. Perhaps if Nobunaga had had a bit more sympathy for others, then the course of history would have been changed.

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
労る	いたわる	itawaru	to care for;V1
合理的	ごうりてき	gōriteki	practical, rational, logical
冷酷	れいこく	reikoku	ruthless, coldhearted, relentless;Adj(na)
突飛	とっぴ	toppi	extraordinary, offbeat, wild;Adj(na)
反抗する	はんこうする	hankō suru	to defy;V3
成功	せいこう	seikō	success
冒頭	ぼうとう	bōtō	introduction
原動力	げんどうりょく	gendōryoku	driving force, motivating force
出身	しゅっしん	shusshin	origin, from -
型破り	かたやぶり	katayaburi	unconventional;Adj (na)

SAMPLE SENTENCES

<p>体をいたわることを忘れて、風邪をひいた。</p> <p><i>Karada o itawaru koto o wasurete, kaze o hiita.</i></p> <p>I forgot to take care of my body, so I caught a cold.</p>	<p>私は、物事を合理的に考えることが多い。</p> <p><i>Watashi wa monogoto o gōriteki ni kangaeru koto ga ōi.</i></p> <p>I tend to think practically about things.</p>
<p>彼は彼女がどんなに冷酷な人か知らないのでしょう。</p> <p><i>Kare wa kanojo ga don'na ni reikoku na hito ka shiranai no deshō.</i></p> <p>He most likely doesn't know how ruthless she is.</p>	<p>彼女はいつも突飛な格好をしてみんなを驚かせる。</p> <p><i>Kanojo wa itsumo toppi na kakkō o shite min'na o odorokaseru.</i></p> <p>She always surprises everyone with her extraordinary outfits.</p>
<p>弟はいつも父に反抗している。</p> <p><i>Otōto wa itsumo chichi ni hankō shite iru.</i></p> <p>My brother always defies father.</p>	<p>今日のイベントは大成功でした。</p> <p><i>Kyō no ibento wa daiseikō deshita.</i></p> <p>Today's event was a big success.</p>
<p>冒頭の言葉にひきつけられて、この本を買った。</p> <p><i>Bōtō no kotoba ni hikitsukerarete kono hon o katta.</i></p> <p>I bought this book because I was pulled in by the introduction.</p>	<p>おかしは私の原動力です。</p> <p><i>Okashi wa watashi no gendōryoku desu.</i></p> <p>Sweets are my motivating force.</p>
<p>彼女はアフリカの出身だそう。</p> <p><i>Kanojo wa Afurika no shusshin da sō da.</i></p> <p>Apparently she's from Africa.</p>	<p>祖父は父の型破りな態度をしかった。</p> <p><i>Sofu wa chichi no katayaburi na taido o shikatta.</i></p> <p>My grandfather scolded my father for his unconventional behaviour.</p>

GRAMMAR

Motoko: オーディオブログ第5シーズン第19課 「織田信長」

Tomoyuki: こんにちは。ともゆきです。

Motoko: こんにちは。もとこです。歴史上の人物シリーズ4回目ですね。

Tomoyuki: はい。今回紹介する人物は誰ですか？

Motoko: 織田信長です。 **Tomoyuki:** おお、有名ですね。では、聞いてみましょう。

ブログ本文

Motoko: 戦国時代が来ましたね。トモユキさん、信長はもちろん知ってますよね。

Tomoyuki: はい、もちろん。あの、火縄銃を戦場で使った武将で有名ですね。

Motoko: そうですね。火縄銃っていうと今で言う拳銃やピストルにあたりますよね。

Tomoyuki: そうですよ。今で言う鉄砲だと思います。もとこさんは何が思い浮かびますか。

Motoko: そうですね。やっぱり「鳴かぬなら 殺してしまえ」という句ですかね。

Tomoyuki: 実際に殺したわけじゃないですけど、ホトトギス、かわいそうですね。

Motoko: はい。あとは着物ではなくて洋服みたいなものをきているイメージがありますね。

Tomoyuki: 洋服ですか。たとえば？

Motoko: 襟に飾りがついた洋服をきていたりとか、マントをはおっていたりとか 聞いたことありませんか。

Tomoyuki: 西洋の服をたくさん着ていたりってことですね。

Motoko: 西洋文化にすごく興味があったんだそうですね。

Tomoyuki: そうですね。当時としては斬新なことをしていますね。

Motoko: そうですね。

Tomoyuki: 「キリスト教の宣教師に布教を許した」とブログの中ではありますが、当時、キリスト教は禁止されていたっけ？

Motoko: そうですね。織田信長の時代より前は特に禁止はされていなかったはず。ただ、日本は古くから神道・仏教を信仰していましたから、キリスト教は一般的ではありませんでした。

Tomoyuki: あー、そうですね。「仏教勢力を弱めるため」とブログにありましたが、当時は、仏教を利用して、力を伸ばしていたり、勝手な事をしてた人がたくさんいたんですね。

Motoko: はい、そうみたいですね。。仏教は日本で古くから続いている宗教ですから、本来の目的を見失って、政治的に強い立場を持つとうという人はいたのだと思います。

Tomoyuki: そうですね。ちなみに、現代の日本のキリスト教徒の割合は1%程度です。ということは、信長がキリスト教に好意的だったのにキリスト教は広がらなかった…ということですね。

Motoko: そうですね。これは、信長以降のリーダー、豊臣秀吉・徳川家康がキリスト教を禁止したためですよ。

Tomoyuki: はい。なかなか宗教の話題は、難しいのですが、

Motoko: そうですね。

Tomoyuki: 簡単に言うと、秀吉や家康が作ろうとした世界とキリスト教の考え方が合わなかった・・・ということでしょうかね。

Motoko: はい。もちろんそうなのですが、仏教を利用して、自分の力を強めようとした人がいたのと同じく、キリスト教を利用して、ひどい事をしてた人がいたのも理由の一つみたいなんですよ。

Tomoyuki: ああ、「植民地を広げるためにキリスト教を利用していた」という説もありますからね。

Motoko: 宗教がそういう目的で利用されていたのだとしたら、大変残念なことだなあと個人的には思いますね~。

Tomoyuki: そうですよ。さて、僕は個人的に、織田信長を知ったリスナーのみなさんに、是非愛知県に行ってほしいと思います。

Motoko: 信長が治めていたのは現在の愛知県ですもんね。たしか名古屋にお城がありますよね。

Tomoyuki: はい。信長が生まれ育ったと言われる名古屋城があります。屋根に付いている金のシャチホコで有名です。

Motoko: お城の一番上にある、金色の2匹の魚の像ですね。

Tomoyuki: はい。あれは、オスとメスなんだそうですよ。

Motoko: へー。何か意味があるんですか。

Tomoyuki: シャチホコはインドの伝説の生き物で、火事から守ってくれる。。。といわれているそうです。

Motoko: インドの生き物なんですかー。

Tomoyuki: はい。昔は純金だったそうです。

Motoko: え？本当の金でできていたんですか？

Tomoyuki: そうらしいですよ。だから、尾張の国の隠し金庫という噂もあったとか・・・。

Motoko: 財政が苦しくなったら少し剥がして使っていたんでしょうかね。でも、盗まれなくて、よかったですね。

Tomoyuki: とても目立つところにありますからね。どろぼうも盗みにくかったかもしれないですね。

Motoko: 今回は戦国時代の三英傑の一人、織田信長を紹介しました。

Tomoyuki: リスナーのみなさん、今回のブログはどうでしたか？コメント欄で是非感想を教えてください。

Motoko: それではまた。 Tomoyuki: さようなら。